
雪

路地裏の黒猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪

【Nコード】

N3446BA

【作者名】

路地裏の黒猫

【あらすじ】

詩です。

夜の話ばかりだったので気分を変えてみました。

昼過ぎ。

この時期でも日差しが暖かく、木々の雪が溶けて地面に落ちる。

風は冷たいが、暖かい。

穏やかに時間が流れていく。

乾いて冷たい空気を思い切り吸い込む。

空を見上げる、どこまでも、どこまでも遠いそら。

深い深い藍色にも似た、青いそら。

空が青く、日差しがあるのに、舞う雪。

風にのり、此处まで旅をしてきた雪。

この雪は何を見てきたのだろう。

どんな風景を見てきたのだろう。

風に身を任せて、登り降りる。

右へ左へ。

いずれ大地に落ちて溶けてしまう、儚い存在でも。

綺麗で、自由だ。

誰しも、大人になる。

大人になれば沢山の、義務や責任といったしがらみが体を捕らえて離さない。

誰かに叱責され、叱責し。

責任を持って、指示を出し決定する。

受けた指示を確実にこなす。

誰かが言う、家に残って偉いねと。

誰かが言う、実家ぐらしってラクなのでしょう？

誰かが言う、早く独り立ちしなさいと。

がんじがらめにされて、身動きが出来ない。

そんな中、空を見上げると形を変えながらどこまでも進む雲とか。

風とか。

雪とかがともうらやましく見える。

夢くとも、夢くとも。

直ぐに消えていく存在だとしても。

その刹那の自由がともうらやましいと思うのだ。

何もかも投げ出したら、楽になれるのだろうか？

空を舞う、雪のように自由になれるのだろうか。

次の瞬間地面に落ちて消えてしまう運命だとしても。

刹那の自由を感じることができのだろうか。

青空の下、どこからか風に乗りたった一粒の雪が。

私の手に落ちて消えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3446ba/>

雪

2012年1月8日23時52分発行